

全東京写真連盟
撮影会写真コンクール
入賞作品集



審査対象 高幡不動尊モデル撮影会

撮影日 2023年11月26日

審査日 2024年01月07日

審査員: HARUKI 先生



金賞
「佳き日」
佐藤 琢哉 様
モデル 23 高幡不動きものクイーン

審査員：HARUKI先生 講評

想像ですがおそらく大勢のカメラマンたちの呼びかけに呼応してのポーズや表情をとっていらっしゃる場面での1シーンなのでしょう。それを90°横の離れた場所から捉えた横顔です。清楚さと同時にキラキラとした美しい瞳と口元、生き活きとした明るい表情のモデルさんの高感度がMAXです。85mmF1.2という大口径中望遠レンズでの撮影ですが、開放ではなくてやや絞ったF2.4での絞りも背景にある朱色の社が柔らかにボケつつも存在感がわかり、モデルさんの着物や帯のマテリアルまで再現されているなど正しい選択だったと思います。



銀賞
「微笑みのポーズ」
河村 徳助 様
モデル 23 高幡不動準きものクイーン

審査員:HARUKI先生 講評

着物姿はもちろん素晴らしいのですが、髪飾りのティアラからきつと洋装もお似合いだと思われる姿勢の良さを感じるモデルさんが、やや照れながらレンズに対して真っ直ぐな眼差しで微笑みかけているシーン。そしてポーズする指先にも硬さがみえる初々しさを感じる仕草がまさに「微笑み」のポーズですね（笑）。金賞と同じく85mmレンズですがこちらは開放値のF1.4での撮影で背景の紅葉をボカしたのが正解でした。メイン被写体と背景との位置関係などで絞りのチョイスも様々です。柔らかい光線でのストレートなポートレートと仕上がりました☆



銅賞
「想い」
内藤 勝之 様
モデル Chiori

審査員:HARUKI先生 講評

偶然にも金賞と同じく横位置でのモデルさんの横顔シチュエーションですが、アチラを「陽」とすれば真逆にコチラは「陰」の方向性の雰囲気です。ややうつむき加減のモデルさんの目線の角度と顔に近づけた紅葉の葉との距離感、指先の絡め方などが絶妙で素晴らしいです。それにプラスして風に揺られているのでしょうかロングヘアの乱れ具合が動感を引き立ててくれました。画面右側の前ボケで入れた植物はこの場合フォーカスが合いつつあるので無い方が良かったかもしれないですね。



入選
「寒い秋」
滝本 憲一郎 様
モデル 鈴木 さくら



入選
「秋の深まり」
鵜飼 典彦 様
モデル Chiori



入選
 「素敵な笑顔」
 松岡 達雄 様
 モデル
 23 高幡不動
 準きものクイーン



入選
 「見つめて」
 金澤 義夫 様
 モデル
 23 高幡不動
 準きものクイーン



入選
「黄金の日日」
星野 祐一 様
モデル
23 高幡不動
準きものクイーン



佳作
「お気に入りのワンピース」
石川 玲 様
モデル Chiori



佳作
「みつめる」
米沢 健二 様
モデル 美冬



佳作
「見つめる」
新井 潔 様
モデル 高畠 祈莉



佳作
「古刹にて」
小幡 大輔 様
モデル 23 高幡不動準きものクイーン



佳作
「秋の終わり」
田沼 靖信 様
モデル 高畠 祈莉



佳作
「着物の女神」
井原 亮祐 様
モデル
23 高幡不動
準きものクイーン



佳作
「降り注ぐ光に」
逢坂 誠俊 様
モデル Chiori



佳作
「紅葉の降り注ぐ」
小島 壯介 様
モデル 詩音



佳作
「傘をさす女性」
三井 直人 様
モデル 23 高幡不動準きものクイーン



佳作
「建物の前で」
山本 暁治 様
モデル
23 高幡不動
準きものクイーン



次点
「落ち葉を持つ女」
深野 武雄 様
モデル Chiori



次点
「紫の傘」
谷川 朗 様
モデル
23 高幡不動
きものクイーン



次点
「ワインレッドの想い」
小倉 良二 様
モデル 優木 音葉



次点
「dolly」
門間 正之 様
モデル
23 高幡不動
準きものクイーン



次点
「秋の笑顔」
寺島 弘行 様
モデル 高畠 祈莉



次点
「この秋の思い」
猿田 善和 様
モデル
23 高幡不動
準きものクイーン



次点
「まなざし」
佐久間 裕史 様
モデル Chiori



次点
「みつめる」
片桐 研一 様
モデル 高畠 祈莉



次点
「紅づくし」
大村 勇二 様
モデル
23 高幡不動
きものクイーン



次点
「艶やかに」
岸野 孝博 様
モデル
23 高幡不動
きものクイーン

【 臨機応変なチョイスを 】

ポートレート写真に於いてはカメラ側の設定としては基本的にはレンズ焦点距離と絞り値によって絵作りが変化します。

今回の上位入賞作品のコメントにも書いておりますが同じレンズでも被写体との距離や背景との関係性、撮影時の天候（光線状態）などによって絞りのチョイスは変わります。もちろん数学のように“これだけが正解”なんて事はありません。逆に同じ絞り値でも、撮影条件の変化によっては適切なレンズの選択も変わりますし、こちらも絶対正解というのはありません。つまり撮影においては様々な要素が組み重なって、しかも好みや目的によって違ってくるというケースバイケースなので常に“臨機応変に臨んでいく姿勢”が大切だと思います☆

HARUKI